

4 習熟度別学習の評価

習熟度別学習の評価には、到達度評価・学習参加度評価・伸長度評価の3本の柱が考えられます。学習参加度評価と伸長度評価は、従来数量化がむずかしいということから、敬遠されてきました。しかし、今回、特に習熟度別学習が一人ひとりの学習の成立を願うという点から、この二つの評価が重視されてきました。単に点数を足したり、割ったりする評価ではなく、学習活動を生き生きと促す働きとしての評価として、各学校の評価内規の中に、是非位置づけたいものです。

その他、自己評価がありますが、学習は生徒の自主性に負うところが大きいということから、その意義が重視されてきました。つまり、教師側の評価だけでは片手落ちで、学習者の主体からの自己評価は、生徒を学習の主人公にするという点で、推奨したい評価です。出雲市の神戸川小学校では、通信簿にこの自己評価を記入するという方式をとっています。

評価の一例を図で示せば、次のとおりです。

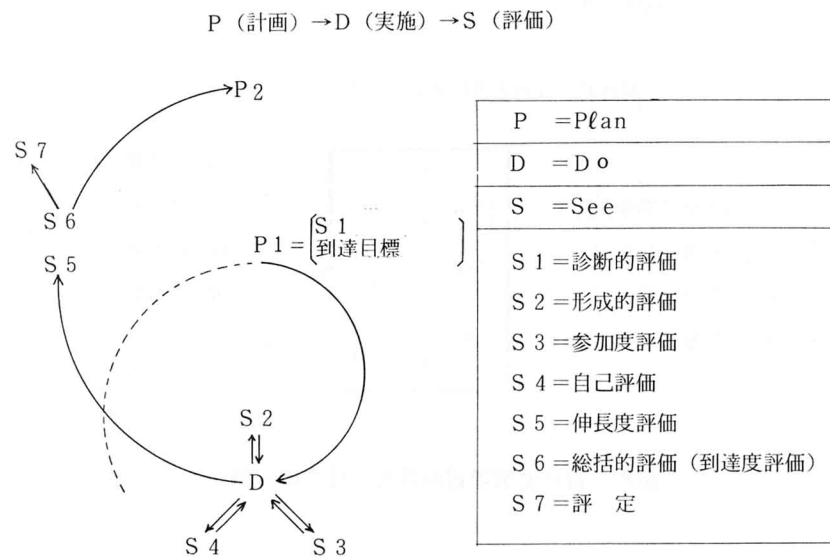


図7 習熟度別学習評価一例